

## 居住の始まり —前期青銅器時代—

テル・レヘシュにおける最初の居住が始まったのが前期青銅器時代であることは、日本隊による発掘調査以前から、テルのサーヴェイ（表面調査）で採集された土器の検討によって明らかであった。発掘調査でも前期青銅器時代の土器が広範囲で散見され、A地区とD地区では、重なり合った石壁や床面など、前期青銅器時代Ⅱ-Ⅲ期に属する遺構を検出することができた。またD地区の最下層からは前期青銅器時代ⅠB期（前3200-3000年頃）の土器が出土し始めている。発掘は岩盤まで達しておらず、D地区では、さらに古い時期の遺構が存在していることが予想される。またテルの下段に位置するC地区から前期青銅器時代の痕跡が検出されなかったことから、同時代の居住地はテルの上段に形成されていたことが判明した。試掘範囲が狭く、前期青銅器時代の建築物に関する情報は限定的であるが、検出された遺物は豊富であった。テル・レヘシュの前期青銅器時代の土器はベト・イエラハなど、ヨルダン溪谷の遺跡から出土した土器と類似したもので、メタリック・ウェアと呼ばれる硬質土器が豊富に出土しているほか（右の写真はメタリック・ウェアの中でもさらに上質の部類に属する壺形土器の破片）、パレスチナ南部に特徴的な型式の壺が出土するなど、そのレパートリーには興味深い要素が含まれている。これらは、テル・レヘシュに居住した人々の経済活動や、ヨルダン溪谷の都市とのつながりを示唆するものであろう（小野塚）。



前期青銅器時代の壺（A地区出土）



前期青銅器時代のメタリック・ウェア（D地区出土）



D地区下層で確認した前期青銅器時代の建築遺構